



通常服の種々

## 序

當日清紡績附屬實科女學校の數は十、その生徒數は一萬數千である。この學校では從來裁縫の教科書を使はなかつた。普通の女學校で使ふ教科書は、値段も高く内容も又不向きであつた。それで教科書を使はないでボードに圖解したり、時にプリントを以てしてゐたが、これは教へる方からも、教へられる側からも、不便であり、變則であつた。従つて適當なる裁縫教科書をなんとかして得たかつたのである。それには、さういふ教科書を誰かに作つて貰ふか若しくは會社學校自身が編纂するか、そのいづれかであつた。前者も考究したが結局後者を選んだのである。

教科書を自身で編纂することは糸を紡ぎ布を織るとは異つて、經驗がないので初めは見當がつかなかつた。然し各方面を慎重に調査研究し、熟慮の揚句大體の見込がたつたので、會社學校裁縫擔當者を總動員した。在東京工場學校裁縫擔當者とその編輯に當らしめ、在地方のそれ等をして援助せしむることにした。

一つの事を纏め上げるには意外の問題が起つて來て、いろいろの困難が伴ふものである。或障害や一寸したことで思はずの時間を要することなどがあつて原稿を書終るまでには可成りの日數を要した。ともかく原稿が出來上つたのでこれを全部プリントにし、表紙をつけて大體教科書其儘の體裁にした。そしてそれを各工場學校に送つた。それは裁縫擔當者に批判検討せしめる爲めであつた。而して必ず具體的意見を提出せしむることにした。生徒側の考へも云はしめた。各學校から相當の意見があつ

女 児 服



女 児 服



て飾ミシンをかける。

- (ハ) 後の持出し、見返し。
- (ニ) 周囲の始末 斜布で縫代をくるむ。
- (ホ) 釦附穴かゝり

## 2. 児童用エプロン



## 男 児 服



## 第七章 通學服運動服

### 其の一 ジャンパー



(ト) 仕上 濕つた布を上にしたせて軽くアイロンを當てる。

(チ) 肩にスナップ附

### 其の二 水兵服



其の三 運動服



第八章 工場服



### 第十七章 非常時服

#### 其の一



生地 ステープル、ファイバー

詰衿 きりつとした感じを與へる。

上衣は着物又は上つぱりとし、下はモンベ用のズボンをはき、同色のベルトで結ぶ。

#### 其の二



生地 木綿

平常は事務服用の上つ張りを用ひ非常の際は其の上から、モンベをはく。

#### 其の三

仕事服・

非常時服



(6) 仕立方

- (イ) 山の縫合せ 表裏とも山を縫合せる。
- (ロ) つばの接合せ つばを接いで輪にする。
- (ハ) つば附 表とつばを中表にして縫ひ合せ、裏を纏り付ける。
- (ニ) つばの飾紐 圖の如くつばに飾紐をつける。(又適當なる刺繡をしても良い)
- (ホ) 房附 上部を約半分の處より折り返して、その先に毛絲の房を附け、同時に留めて置く。

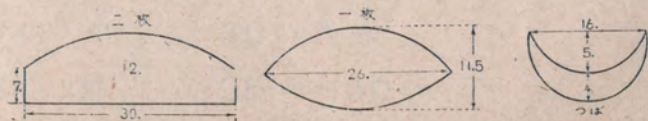


5. 戦闘帽

(1) 出来上り圖



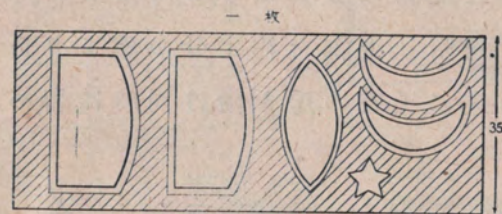
(2) 型の取り方



(3) 材料

- 表用布 30 cm
- 裏 芯地
- 附属品 顎紐, さくらぼたん 2個  
徽章 1個

(4) 裁方



縫代として、約1 cm宛周圍に入れて裁つ。

(5) 仕立方

- (イ) 頭布縫合せ
- (ロ) つばを作る
- (ハ) つばを付ける。
- (ニ) 顎紐、徽章等を付ける。



昭和十四年九月七日印刷  
昭和十四年九月十二日發行



編纂兼  
發行者 東京市日本橋區浪花町二十番地  
日清紡績附屬實科女學校  
工場學校教育研究會  
代表者 善場 貫一

印刷者 東京市神田區神保町三丁目二十九番地  
日本青年教育會印刷部

發賣所 東京市神田區神保町三丁目二十九番地  
日本青年教育會出版部

最新裁縫教科書  
中 卷  
定價 金壹圓貳拾錢